

令和5年度
県大会発表者
作品





言葉を紡ぐ

東松島市立矢本第一中学校 3年 入駒奏羽

「消えろよ。」

ある日の休み時間。いつも通り少し騒がしくて、そして皆の笑い声が響く楽しい時間でした。そんな時に、私の耳に入ってきた言葉。

「お前さー、まじで消えろよ。」

そう笑いながら言う姿に、私は言いようのない衝撃を受けたのです。普段ならそこまで気にせず、聞き流してしまっていた言葉。しかし、その日はなぜかはっきりと聞こえた笑い交じりの「消えろ」が、頭に残って離れませんでした。私が言われたわけでもないのに、笑って話している中で出た冗談だとも分かっているはずなのに、なぜか私は、その言葉が気になって気になって仕方がなかったのです。

「どうして、あんなに軽々しく「消えろ」が言えるのだろう。どうして、人を傷付ける言葉を笑って言えるのだろう。」

そんな疑問が胸に渦巻き、誰にもその疑問を打ち明けることもできないまま、私の心はモヤモヤとした気持ちを抱えることになりました。

皆さんは動画を見たりしますか？その動画にどんなコメントが書かれているかを見たことはありますか？どんなに可愛くても、どんなに上手でもコメント欄にはこんな言葉たちがあふれています。

「可愛くない」「下手すぎ」「見てられないんだけど」「動画出すのやめろ」「まじでウザい」「顔出すな」

その人を否定する誹謗中傷の言葉たち。きっと軽い気持ちで書いているのでしょう。もしかしたら良かれと思って書いているのかもしれませんが、この言葉たちを向けられた人が傷付いていないわけがないのです。しかし、そのことに気付いている人は多くはありません。「言葉のナイフ」が簡単に誰かに向けられるようになってしまっていると私は思うのです。ではなぜ、このような人を傷付ける言葉が軽々しく言われるようになってしまったのでしょうか。私は、先ほど触れたネットの世界が関係していると思います。テレビだけでなく、今は配信された動画を見て楽しむ時代になりました。そして時に、人を攻撃する言葉は、「いじり」として笑いを呼びます。そしてそれは、そのまま現実の世界に戻ってきます。ネットで許されるなら現実でも言っているだろう、やっつけていいだろうがエスカレートしていき、人を傷付けることにためらいが失われていったのだと思います。その結果、言葉の意味や伝わる思いを考えず、私たちは言葉を軽々しく使っ

てしまうようになってしまったのだと思います。

このままでは、気付かないうちに誰かを傷付けてしまう社会になってしまいます。私はそんな未来になってしまうのが怖くてしかたありません。そうならないためにも、私たちは何をしていかなければいけないのでしょうか。私自身、軽はずみに言葉を使ってしまい、人を傷付けてしまったことがありました。だからこそ、それに気付けた今、自分の言葉に責任を持たなければいけないのです。言葉の意味を、どのように相手に伝わっていくのかを考えて言葉を発していかなければいけないと思います。

世の中には「言葉を紡ぐ」という言い回しがあります。言葉を「紡ぎ」、人と「繋ぐ」私たちだからこそ、伝える言葉に意味を持たせて、大切に生き方をしていきたいと思うのです。言葉はたった一言で人を生かすこともできるし、その命を奪うこともできます。そのことを忘れず、大切に言葉を紡いでいきたいと思っています。皆さんも、相手に思いを伝える言葉を大切に、皆が笑顔になれる言葉を紡いでいきましょう。私も自分の言葉を誰かを攻撃するためじゃなくて、誰かを守るために、誰かを勇気づけるために使っていきたいと思っています。「消えろ！」じゃなくて「一緒にいてくれてありがとう」を私は伝えていきたいと思っています。これからの未来が、言葉でも助け合い、温め合える世界になりますように。

● プロフィール ●

好きなことやもの

私は「お笑い」が好きです。何か辛いことがあったときや落ち込んでいるときに、お笑い番組を見て、おもいきり笑うことで心がすっきりして、また頑張ろう！と思うことができるからです。

苦手なことやもの

野菜全般が苦手です。給食などで出てくる野菜などは頑張って食べていますが、味がどうしても受け入れられません。しかし、これからも健康に過ごしていくためにも、積極的に食べるようにして苦手を克服できるようにしています。

将来の夢

将来は美容関係の仕事に就きたいと思っています。そのために現在は、動画でメイクの仕方を学んだり、ヘアアレンジを試みたりと知識を蓄えています。



青少年のための宮城県民会議会長賞

無限じゃない

多賀城市立高崎中学校 3年 伊藤 百花

私たちは今、スマホを手放せなくなっています。膨大な時間をゲームや動画の視聴に費やしています。ある出来事を経験するまでは、私もスマホに時間を支配されていました。

小学校の頃、私には仲の良い友だちが2人いて、その子達と家で遊ぶことになっていました。2人は小学校からスマホを持っていて、とてもうらやましかったのを覚えています。2人が家に来て、私が飲み物を持って行ったら、2人はスマホを触っていました。

(連絡をしているのかな) と思い、私は2人がスマホを触り終わるのを待ちました。しかし、いつまで経っても、スマホを離す気配がありません。しびれを切らして、「何をしているの」と聞いたら、2人は「ゲーム」と口をそろえて言いました。その時はただ呆然としました。私はスマホを持っていないのに。個人でゲームをするなら集まる意味無くない? その後は一緒にいる気になれず、「この後予定あったの忘れてた。」と適当な理由をつけて帰ってもらいました。2人を待ってただ座っていた時間に、もっと他のことができたのではないか。そう思うと、とても悲しくなり、「私がスマホを持ったら絶対にこんなことしない」と固く誓いました。

中学生になり、私もスマホを買ってもらいました。使ってみるととても楽しくて、時間を忘れそうになりました。

私の家には「さくら」という犬がいます。さくらは大切な家族の一員です。ある時、さくらが体調を崩してしまいました。寝る時間が多くなったり、毛並みが悪くなったり、日に日に元気がなくなっていくようでした。あわてて病院に行くと、「原因はストレスです。遊んであげたり散歩をする時間は十分にとれていますか。」と獣医さんに言われました。思い返してみると、スマホを持ち始めてから遊んであげる時間も散歩をする時間も減っていました。自分のせいでさくらが体調を崩してしまったのです。何より、小学校の時に感じた悲しい思いを、今度は自分がさくらにさせてしまったのです。申し訳ない気持ちと自分に対する怒りで頭がいっぱいになりました。

その時、母が私に言いました。「犬は、どう頑張っても私たちより先に寿命が来てしまう。時間には限りがあるの。それにさくらにはあなたしかいないんだよ。」

そこで私は、やっと気づきました。時間には限りが

あり、その時間を私が無駄に使っていたことを。

今現在、私たちはスマホを日常的に使うことが多いと思います。そんな中、世の中でよく心配されているのは、スマホの使いすぎによる視力や学力の低下です。しかし、それよりも私が最も心配していること。それは、大切な人と過ごす時間や、大切にすべき時間そのものをスマホに奪われているということです。確かにスマホはゲームもできて動画も見られて、アプリなどで様々な仕事をこなすことができます。検索もできて、学習や生活の色々な場面でも活躍し、暇つぶしも簡単にできます。それゆえに1日のうち、数時間もスマホに使っている人がほとんどだと思います。

しかし、考えてみてください。今ある有限な時間を、皆さんはどう使いますか。私たちは日々、判断を迫られています。もちろん私は大切な人のために、大切なことのために、その時間を使いたいと思います。さくらと私が幸せに過ごせるように。

● プロフィール ●

好きなことやもの 寝ること。冬。

苦手なことやもの 長距離走。夏。

将来の夢 楽しいと思える仕事に就くこと。



青少年のための宮城県民会議会長賞

自分らしく生きるということ

大河原町立大河原中学校 3年 佐藤 夢 羽

「自分らしく生きてみたら」

手話サークルで出会ったデフリンピック選手Aさんが手話で伝えてくれたことです。デフリンピックとは、聴覚に障害を持つ人たちのスポーツ競技大会です。

自分らしく生きるって何だろう。

中学2年生の春、私は学校に行けなくなりました。原因は友達関係によって人と会うことが怖くなってしまったのです。やらなくてはならないと分かっているも一歩踏みだせない自分になってしまいました。

そんな毎日を送る私に、母から手話サークルの誘いがあった、以前から興味があったので、母と一緒に行きました。

初めはとても緊張しました。なぜなら、心の中の不安がまだ残っていたからです。しかし、行ってみると静かな空間の中でのサークルなのかなと思っていたら、明るく気軽に接してくれました。その手話サークルで、デフリンピック選手Aさんと出会いました。Aさんはスポーツ選手として自分を鍛えながら、みんなに手話を教えてくれる先生だったのです。

Aさんは本当に明るい人で、周りの人を笑顔にするような人でした。また、何よりも自分の力を信じ、デフリンピックに出場する目標を持つ、強い人という印象でした。私にとってその姿はあこがれであり、心の支えに変わっていったのです。

ある時、Aさんから通訳の方を通して、Aさんも悩んできた日々があったことを伝えられました。選手になる前は自分がろう者であることに対して、健聴者をうらやみ、どうして自分はこうなってしまったんだと人生に不安を感じていた時もあったそうです。こんなにも強く生きていた人も、人生が嫌になるほどの経験をしてきたことに驚きました。

ハンディを乗り越え、自分の好きな競技に突き進んでいるAさんを尊敬しました。

その話を聞いたあとにAさんに対して、親しみと信頼を感じ、自然に自分のことを正直に話していました。自分の何が悪かったのかしだいに自分をせめるようになっていたこと。

誰にもこの思いを気付かれたくないと強く思いはじめた頃は、学校に行けなくなっていたこと。そんな私の今までの思いを通訳の方を通してAさんに伝えたと、Aさんから、「まじめすぎるからもっと気軽にいけばいいじゃん」と言われたとき気持ちが楽になりました。と同時に思いを分かち合うことのすばらしさを

実感しました。Aさんのように、好きな事に突き進む人になりたい。その第一歩として、手話を学び、不安や悩みを持っている人の気持ちを分かち合ったり、おたがい喜びを伝え合ったりできる人になっていこう。周りの空気に合わせてしまい、自分らしくいられない空間にいるより、自分が楽しめることこれが私の自分らしさなんだと気付きました。

2年生も終わる頃、手話がきっかけで、学校に行けるようになりました。友達に手話を教えることで、喜びをわかち合い自分の居場所を感じることができたのです。

「おはよう」と手話で挨拶したら、何人かの人たちが興味を持って、「私もやってみたいから教えて。」と言ってくれて嬉しかったです。朝はおはよう、帰りはまたねと手話をして帰るという日々を送っています。

2年後に東京デフリンピックが開催されます。私は今、その会場で手話でボランティアをすることを目標にしています。うまく出来るかどうか分かりませんが、私のやり方で大好きな手話を皆に伝えていきたいです。

● プロフィール ●

好きなことやもの
私が好きなことは手話です。手話は言葉がなくても手を使って言葉を伝えることができます。また、言葉の意味に合っている手話が多く覚えるのがとても楽しいです。

苦手なことやもの
私が苦手なことは泳ぐことです。息つきが苦手な私は小学生の頃はクロールで25m泳ぐことも出来ませんでした。しかし、中学生になってから息つきを少しずつ覚え、クロールで25m泳げるようになりました。

将来の夢
私の将来の夢は手話の使える医療保育士になることです。手話を使っている子たちとも関わっていきたいです。これから、点字なども覚えて誰にでもよりそえる医療保育士になりたいです。



優良賞

ふるさとでの学び

仙台市立根白石中学校 3年 合^{ごう}地^ち絢^{あや}音^ね

私が通っている根白石中学校は、全校生徒80人弱の小規模校です。人数が少ないからこそ人と人との繋がりは強く、学年を越えて互いを認め合う温かな空気が流れています。それは先生方も同じで、生徒一人ひとりをよく見て下さっていると感じます。

私は中学校へ進学するのをきっかけに根白石に引っ越しました。通っていた小学校の1学年よりも少ない全校生徒数、そして幼なじみ同士でもある彼らの中で始めは自分が浮いている気がしてなりません。クラスメイトは私を優しく迎えてくれましたが、本当の自分を出すことができず、臆病になっていました。

担任の先生から生徒会役員に興味があるかと聞かれたのはそんなときです。認められた喜びを感じる一方、私に務まるのかという不安がよぎりすぐに返事ができませんでした。でも先生は「絢音さんならやれると思うよ」と私の挑戦してみたい気持ちを後押しして下さいました。

役員として過ごすうちに、自分の考えを周りに伝えることを求められる機会が増え、自然と本当の自分が出せるようになりました。学校行事や授業でも「いい顔をしている」と先生方に声を掛けて頂き、様々な活動に自信を持って挑戦することが多くなっています。

その中の一つに伝統芸能の継承活動があります。450年以上地域に根づく鹿踊・剣舞は県指定の無形民俗文化財で、中断と復活を繰り返しながら大切に守られてきました。私たちの中学校では2年生で鹿踊、3年生で剣舞に取り組んでいます。経験者もいる中、私は今年10人前後で舞う剣舞に舞い手として参加することになりました。ふるさとの発展を願う思いを込めて引き継いできた舞を、中学生の私たちに継承してほしいと、地域の保存会の方々が毎年熱心に指導して下さいます。実際に舞うと扇や剣の扱いが難しく、中腰を維持する体勢だけで疲れてしまいました。何度も同じ動きを練習する私に、保存会の方は笑顔で話しかけ手本を見せて下さいます。爪先まで細かな技巧が凝らされた洗練された舞を見ると、私もそのように舞いたいという気持ちが強くなります。保存会の方々は「中学生らしく元気に舞ってほしい」とお話しして下さい

たこともあり、伝統を継承しつつ、自分たちで舞う楽しみも与えて下さっています。私は古くからの人の熱い思いを感じながら、私たちにしかできない舞を創ろうと練習に励んでいます。

伝統芸能の継承活動を通して、私は地域や社会と繋がる喜びを感じることができました。繋がりは目に見えず不確かですが、その温もりを私は肌で感じています。剣舞を後世にしっかり伝えたいという思いを受け継ぐことが私自身を成長させてくれました。

何かと繋がろうとすることで、繋がりの中で自分が多くの人に支えられていると気づき、思いやりや感謝が芽生えます。私も保存会の方への感謝の気持ちや、地域の人と歴史を大切にしようとする思いやりを実感しました。温かな人に囲まれて自分が成長できる場所を、私はふるさとと呼ぶのだと思います。

私の将来の夢は中学校の先生になることです。今この胸にある気持ちを忘れず、これから生きる人たちにふるさとのよさを伝えられる、そんな存在になりたいです。

● プロフィール ●

好きなことやもの HoneyWorks

苦手なことやもの 運動全般

将来の夢 中学校の先生になって地域の活動に取り組み、社会的に自立した「カッコいい」女性になることです。



優良賞

想いを両手に

気仙沼市立唐桑中学校 3年 佐藤葉月

「かっこよかった。これからも頑張ってね。」

私は、この言葉に救われたのです。

中学校1年生までの私は、自分に自信が持てず、人と話すときは、目を合わせられずにいました。友達と2人で話す時も、上手く話すことができず、沈黙が続くばかり……。克服しようと思っても、言葉が出てこず、(どうせ自分は内気で暗い人間……。) そう自分に言い聞かせる私と、そんな自分を好きになれない私。心のモヤモヤや苛立ちを周りに気付かれぬよう、休み時間は本を読み、できるだけ小さくなって過ごしていました。

そんな時、先生の勧めもあり、以前から興味があった手話について学ぶことになりました。総合的な学習の2年生のテーマは、「福祉のまち」。「福祉のまち」を目指して、自分たちに何ができるのか。個人で課題を設定し、探究しました。そこで私は、地域で行われる「福祉アート展」で、探究してきた内容を手話で発表しようと考えました。一つずつ伝えたい言葉の手話をマスターしていき、なんとか前半部分の原稿を手話で表現できるようになりました。そこで、できるところまでを、先生に見てもらうことにしました。私は覚えたてのぎこちない手話を披露しました。すると先生は、とても嬉しそうに私を抱きしめて、「すごい、すごい！よく覚えたね！」

と何度も言ってくださいました。先生の後ろで様子を見ていたクラスのみみんなも、自分達の活動の手を止め、拍手してくれたのです。「福祉アート展」本番は、緊張で手が震え、隣で説明する友達の原稿に、手話をする手が追いつきませんでした。結局、あまり手が動かせないまま、私の出番は終わったのです。(たくさん練習したのに、頑張っただけなのに。来てくださった方々に伝わっていただろうか。) と、またいつもの自己嫌悪に押し潰されそうになった時、

「かっこよかった。これからも頑張ってね。」

と発表を聞いてくださっていた方が、手話で私に話しかけてくれました。

「ありがとう。」

嬉しくて、無意識に手話で返しました。私の言葉が、

想いが、手話となって伝わっていたのです。

手話は国によって違います。しかし、必ず相手と目を合わせる事。これは世界共通です。

先日、NHKのある番組が、手話について放送していました。その中の「手話は手だけではなく、表情や仕草などが全て文法なのだ。」という言葉が、とても印象に残りました。

私は今、とても幸せです。私は今、とても辛いです。手の動きだけでなく、表情が大切な理由が分かっていただけでしょか。

現在、日本で手話を使用している人は、1,500人に1人です。私は、この数字を見てとても驚きました。もっと手話を普及させ、一人一人が想いを伝えやすい社会を作っていきたいです。IT化が進む今日ですが、人の想いや心の交流が薄くなっているという話をよく耳にします。

手話を学んでから、目を合わせて話をする事が、私の日常になりました。手話が、私の想いを素直に表現させ、伝える喜びや支えて下さる方への感謝に気付かせてくれたのです。

私はこれからも手話を学び続けます。この両手いっぱい、想いととも。

● プロフィール ●

好きなことやもの

本を読むこと、絵を描くこと、友達と話すこと、猫と遊ぶこと、教室にある植物のお世話をすることが好きです。また、好きな食べ物は「たまごやき」です。

苦手なことやもの

みんなを仕切ること、数学、放送室のマイクが苦手です。

将来の夢

母や先生、先輩のように「優しく強い人になりたい」です。



優 良 賞

つじ とも か
辻 知 夏

私が一型糖尿病を発病したのは小学校6年生の、もうすぐ卒業という2月のことでした。

体に機械を付けなければいけない生活。薬の量を間違えると死に至る可能性もあります。今まで、当たり前前に送っていた生活ができなくなったことは、私にとって、とても大きなショックでした。

私以上に発病を悲しんだのは家族でした。私のせいで辛い思いをさせて申し訳ない。安心してほしい。私は、病気のことを早く受け入れられるようにと、無理に明るく努めました。病気のことを受け止められないのは甘えだ、と自分を追い込む日々。

そして私は、自分に自信を持つことができなくなり、自分を見失いました。中学校に入学した私は、自分とは違う意見にもうなずき、大勢の人の意見に流されました。

みんなと同じような生活をし、みんなと同じような趣味を持つ「自分」を演じる毎日。けれど、いつまでたっても、心は満たされず、心から笑うことはできません。

中学2年生の夏、私は、岡本太郎記念館へ行きました。彼の作品はどれも原色を多く使った絵で、エネルギーが伝わってきました。しかし、そのような絵は当時はあまり評価されなかったそうです。けれど彼は、「他人にこびたような絵は描かない。他人が笑おうが笑うまいが、自分で自分の歌を歌えばいいんだよ。」と、言ったそうです。絶対に揺るがない彼の意志に私は驚き、衝撃を受けました。

そのとき、気がついたのです。本当に大切なことは、周りを気にしすぎるのではなく、自分がやりたいことや好きなことに、素直に取り組むことなのだ、と。

それから私は、今の状況を嘆くのをやめ、自分のやりたいことに積極的に挑戦しよう、と考えるようになりました。それが、自分自身を大事にする第一歩だと思ったのです。

今私は、音楽部に所属し、毎日合唱の練習をしています。合唱はみんなで作り上げるものです。周りの音をよく聞きつつ、自分の考えを持つことがとても大切になります。

音楽部には、途中で転部してきた私を、昔からいたかのように、温かく支えてくださる先輩方や、時には支えあい、笑いあいながら一緒に成長できる仲間がいます。それぞれ考え方も歌い方も違うのに調和していて、聴いていて鳥肌が立つような音楽を奏することができます。私はそのことに感動し、歌うことの楽しさ

を感じます。

いつしか私は、自分のいいところも悪いところも、個性として受け入れられるようになっていました。病気のこの体さえ、悪いところだとは思いません。むしろ、病気のおかげで、自分ではあらがうことのできない大きな問題に直面した時の苦しみや悲しみを、理解できる人になれた、と思っています。

最近、多様性を認めよう、という言葉をよく耳にします。誰もが個性を認め合い、尊重し、安心して暮らせる社会。まだまだ、その実現にはほど遠い状況のように思います。

けれど、私はあまり悲観していません。自分を大事にすること。そして、周りの人を大事にすること。この2つは、決して別々のことではなく、実は同じことを言っているように思うのです。そう考えると、実は誰もが毎日やっていることなのです。

岡本太郎は言います。「絶対に妥協しないで、でも人と争うんじゃないで、ニッコリ笑ってればいい。そうすればいつか、相手に君の純粋さが分かってくる。」

揺るがない自分の軸を持ち、周りの人のことを受け入れられる、広い心を持った人になることを、私は目指そうと思います。まずは、私たちの周りから、多様性を認める社会を築いていきたいのです。歌に願いを込めて。仲間と共に。

● プロフィール ●

好きなことやもの

私は歌うことと絵を描くことが大好きです。私の所属している音楽部での練習はハードですが、仲間と共に毎日頑張っています。絵を描くことは今の自分を表現することなので、日々の成長を実感できます。

苦手なことやもの

私は、自分のことしか考えないような卑怯な行為が嫌いです。私も時々自己中心的な考えをしますが、弱い自分に負けないよう、気を付けて生活しています。

将来の夢

絵を描くことが好きなので、クリエイティブな仕事をしたいです。自分の創造した物で喜んでもらえるなら幸せだと思います。



優良賞

あの人のように

栗原市立栗駒中学校 3年 さい とう あ こ
齋 藤 愛 心

皆さんは将来の夢について考えたことはありますか。「結婚して幸せな家庭を作りたい」「あんな仕事してみたい」など、「なりたい自分の姿」を描いた事があると思います。夢を抱いたきっかけはどんな事でしたか。

私は子どもが好きで、「将来は保育士になりたい」と思っていました。しかし、私が小学5年生の時、11歳離れた妹ができたのです。その時、母から「安定期に入るまでは、いつ流産するか分からないんだよ」と言われ生まれ来る妹の安否が不安になりました。

そんな不安を抱えながら母の通院に付き添った時、助産師さんから「赤ちゃんは元気だよ、日々成長しているよ」と笑顔で伝えられとても安心しました。母に「助産師さんってすごいね」と言うと、母は「助産師さんはねお母さんにはすごく心強い存在で、生まれしてきた赤ちゃんの健康状態を観察したり、抱き方やお風呂の入れ方なども教えてくれたりしてね。すごく助かったんだよ。」と教えてくれました。助産師の仕事は分娩に関わる医療行為だけ、そう思っていた私は、助産師が担う大きな役割を知り、驚きました。

私の母は働きながら4人の育児をしています。母も人間だから誰かに子育てや仕事の事を相談したいと思うこともあると思います。しかし、母はいつも自分の事は後回し。仕事から帰ってくるとすぐに家事や育児をする母を見ていると「お母さんって大変な仕事だな」と感じています。母が出産後も検診の度に、助産師さんに支えられていたと教えてくれました。育児や日々の生活の苦勞などをこぼしても、その一つ一つに丁寧なアドバイスをしてくれて、精神的にとても助けられたそうです。この時、助産師さんは母だけでなく、その家族も笑顔にする仕事だと気が付きました。同時に、「あの助産師さんのようになりたい」と思い始めました。

今後、日本政府が「異次元」の少子化対策に取り組むというニュースを先日聞きました。子育て家庭に支援金の給付や医療サービスの無償化を行い、育児をしながら働きやすい環境を整備するのだそうです。「私が助産師になったら、お母さんたちの子育ての悩みを聞いたり、励ましたりできるかな…」

あの時、「赤ちゃん女の子だったんだね！お姉ちゃん良かったね！」とキラキラした笑顔で、妹の誕生を喜んでくれた助産師さん。私ができる事は少ないかもしれませんが、妊婦さんと一緒に喜んだり、困っている事や辛い事に対して一緒に考えたりできる助産師に

なりたいと思います。

そのためには、看護師と助産師、両方の国家資格が必要だそうです。その事を知って「私に合格できるのだろうか…」と不安に思っている時、ネットニュースでイチロー選手の記事を読みました。すると、私にぴったりな言葉がありました。「小さい事を積み重ねる事が、とんでもない所へ行くただ一つの道である」と。私が助産師になる過程では「もう無理。投げ出したい！」と思う事があるはずですが。その時にこの言葉を思い出し「今は努力する時。必ず助産師になる！」と自分に言い聞かせ、目の前の事に全力を尽くしたいと思っています。

皆さんの中には、将来の夢がまだ見つからない人がいるかもしれません。ゆっくり焦らず、自分の夢を探してみませんか。

● プロフィール ●

好きなことやもの

私が好きなことは剣道です。小学校4年生から6年生まで続けていました。剣道の魅力は目の前のことへ集中力を高めると戦い、技が決まった時の爽快感であると思います。また礼儀や元気よく挨拶する姿勢を学んだことで、今は誰にでも自分から声をかけることができます。

苦手なことやもの

私が苦手なことは、計画的に物事を行うことです。テスト勉強に取り組んでいるときに、「成果を得るためには計画が大切である」と学びました。そこからは、手当たり次第取り組むのではなく、まず、計画を立てて、学習するようにしています。

将来の夢

私の11歳離れた妹が誕生した時に出会った明るく、元気をくれる助産師さんに憧れを抱いたことがきっかけで将来は助産師になりたいと思っています。



優 良 賞

私らしく挑戦する

登米市立津山中学校 3年 佐藤愛美

休日、家で何気なく見ていたテレビのコマーシャル。それは、きれいな髪を整えるというシャンプーで、「あなたらしく」というメッセージが流れていました。「私らしく」？私らしさって、何だろう。私らしい髪型って？長い髪型、短い髪型、黒い髪、金髪。いや、金髪なんて考えられない。私には似合わないはずだ。似合わない？私らしくないから…。私らしさって何だろう。

私は絵を描くことが好きです。ポスターのような大きなサイズの絵を描くこともありますし、校内のパンフレットの表紙を描く事もあります。今年は、春の生徒総会資料の表紙を任せられ、私なりのデザインを考えて、仕上げました。任せられたことに、自分を認めてもらえたという喜びを感じましたし、仕上げることで達成感を味わいたいとも思いました。しかし、出来上がったデザインを提出してみると、何かが足りない、物足りないと言われたのです。背景のない、人物だけのデザインだったのですが、背景が必要だと言われました。その後、私は、友人と話してみました。

「何がだめだったんだろう。」

「これでもいいと思うけど、もうひと工夫、なのかな」
「自分がいいと思っても、相手への伝わり方は違うからね。」

そのとき、先ほどのテレビコマーシャルを思い出しました。「自分らしさ」と伝えていたあのコマーシャルです。

同じ一つの絵でも、他の人から見れば、印象は十人十色です。私の描いた絵も、背景を入れることによって、印象はがらりと変わります。背景の描き方によっては、私の伝えたいことは、描かなかったときよりもずっと伝わりやすくなるかもしれない、と思うようになりました。「直した方がいい」と言われた時は、自分の考えが認められなかった悔しさがありました。しかし、見る人にどのように伝わるか、というところは、実はとても大事ではないかと思うようになりました。もっと気持ちを広げて、表現を工夫することは、自分からの思いだけでなく、相手の側からも考えてみることであり、自分自身を、もっと広い世界に解き放っていくことではないでしょうか。私は、背景を考えてみ

ることにしました。以前は、たかが背景、と考えていました。しかし、背景も合わせて考えてみると、何だか、自分の可能性を広げはじめた気持ちになりました。

髪型で印象を変える人がいるように、私は今、絵を描くことで、自分を表現しようと思っています。本を読んで刺激を受けることも多く、それを絵に表現したいと思うのです。

今、私は色々なことに挑戦しようと思っています。狭い箱の中に自分を押し込めるのではなく、もっと広い世界に飛び出して、自分の可能性を伸ばしてみたいと思います。駅伝練習に加わらないかと言われれば、これまでのソフトボール部の活動を生かして走ってみようと思いますし、スピーチをしないかと勧められれば、自分の思いを見つめるためのチャンスだと考えました。お互いの思いを言葉で伝え合うことができれば、こんな気持ちのすっきりすることはありません。絵もスピーチも駅伝も私らしさを広げてくれました。私は挑戦し続けます。ようやく、狭い箱の中から抜け出したところなのですから。

● プロフィール ●

好きなことやもの 絵を描くことや本を読むことが好きです。水族館で魚を見たり、音楽を聴いたりすることも好きです。

苦手なことやもの 数学が苦手です。

将来の夢 将来、図書館の司書になって、本のすばらしさを伝えたいです。そして、私の描いた絵で色々な人を笑顔にすることです。



優 良 賞

あなたの個性は何ですか？

大衡村立大衡中学校 2年 ^か狩 ^の野 ^ま真 ^{ひろ}優

「私が守ってあげる。」

妹が生まれてから6年間、毎日、この思いが私の心の中にありました。私の妹は、生まれつき左手の指が短いのです。他の人と違うハンデのある妹。でも、私は全然気にしない。私にとっては、かわいいかわいい妹なのです。もし、妹をいじめる人がいたら絶対に許さない。姉の私が守るのだと決意したのです。

そんな思いが日増しに強くなっていた時、コロナウイルスの影響で1年延期になっていた、東京オリンピック・パラリンピックが開幕されました。ニュースなどでパラリンピックに出ている選手達は、生まれつきや、病気事故などで障害があっても、すばらしい活躍をしていました。

私が応援していた選手の1人にバドミントンの今井大湧選手がいます。彼は生まれつき右手が不自由ですが、障害がないかのような素早いプレーを見せ、真剣に競技をしていました。パラリンピックをみて、日本はもちろん、世界には障害を持っていても活躍し、強く生きていく人が沢山いるということを知りました。その後、あるインタビューで今井選手が「障害をハンデと感じたことはありません」と、はっきり言っていました。体が不自由だと、生活でも競技でも大変な思いをしているはずなのに。私は不思議に思いました。

ある日、妹とパラリンピックのことや障害のことを話していると、妹が言いました。

「私の手、他の人より小さくて可愛いでしょ？」

私はとっても驚きました。妹は他の人より小さい手、という障害を欠点としてではなく、自分のチャームポイントとして考えていたのです。前向きに自分と向き合う妹を、私は、もっと大好きになりました。妹の考え方を知り、今井選手の「障害をハンデと感じたことがない」という言葉には、障害を前向きに捉え、自分の力でやり遂げたいという気持ちがあるのではないかと思います。そして私は「私が守ってあげる」という考えから「必要な時に支えになれる存在でいたい」と思うようになったのです。

皆さんの周りに障害のある人はいますか？世の中には障害のある人を差別したり、殺されるべきだという極端な考えを持つ人がいます。もっと障害のある人と接する機会を増やし、交流を深め、互いを理解することで、そのような考え方が少しずつ変わっていくかもしれません。障害のある人も、ない人も、私達は皆、同じ人間です。いつも一緒にいる妹がそう気づかせて

くれたのです。

世界には、障害のある人が沢山います。その中には助けが必要な重度の障害のある人もいます。小さなことも、集まれば大きなことになる。大きなことはできなくても、小さなことから変えていくことが大切だと私は考えます。皆さん、相手の自分とは違う点をチャームポイントとして、個性として、認めていきますか？相手を理解し、お互いを認めていくためにも、欠点はその人の個性ととらえてみる。悪いところよりも、良いところを探してみる。皆さんもぜひ一緒に小さなことから始めていきませんか？世界に自分と全く同じ人はいません。個性を認め合い、互いを理解し合うことができれば、きっと今より楽しく充実した毎日を過ごすことができると思います。

これから私は助けが必要な人達の心に寄り添い、個性を理解し、支えになれる介護士を目指します。小さい手、大きい手。ううん、それ以外にもたくさんある個性。人それぞれの個性を受け止め、尊重することが出来る、温かい手で包んであげられる人に私はなりたい。

● プロフィール ●

好きなことやもの
絵を描くことが好きのため、美術部に所属しています。現在は、夏のコンクールに向けて自由画を制作中です。

苦手なことやもの
虫全般が苦手です。春や夏の時は、虫がたくさん出て来るため、早く冬になることを願っています。

将来の夢
介護士になりたいと思っています。昨年から母と一緒に祖母の身の回りの世話をしています。大変なことが多いですが、「ありがとう」や「助かったよ」など、感謝の気持ちを聞けるとうれしくなり、とてもやりがいを感じます。



優 良 賞

「やってみよう」という思いがあれば

仙台市立五城中学校 3年 菅 井 菜々乃

みなさんは、やってみたいと思い入部した部活で同性の部員はたった1人だったときどうしますか。

私は、剣道部に所属しています。剣道に興味があったこと、部活動紹介のときの先輩達の姿がすごく格好良かったこと、体験入部で実際に竹刀を持たせてもらい、打ってみたら楽しかったこと、これらの理由で剣道をやってみたいと強く思い入部しました。女子1人で入部する勇気はなかったのですが、なぜか私は、「自分以外にも入部する人はいるだろう。」と思い込み、確かめることもなく入部届けを出しました。部活に行くと女子は私1人でした。「まじか…。」そこから私の部活はスタートしました。

最初は不安で練習に行くことが嫌でしたが、「挑戦したい気持ちがあるなら1人でも大丈夫。」という母の言葉に背中を押されて、続けてみようと思いました。やってみたいと思う気持ちを大事に続けてみるとたくさん良いことがありました。その中の一つが先輩達や同級生と仲良くなれたことです。特に先輩達は女子1人の私にも分け隔てなく接してくれました。また、私はもともと声が大きくそれは私にとってコンプレックスでした。しかし、先輩達が私の声の大きさを褒めてくれました。試合会場で会った人も、様々な場面で教えてくれる方も私の声の大きさをそれぞれの言葉で褒めてくれました。このことから、声が大きいということが私の自信となりました。そして、実際に剣道など様々な場面で声が大きいということが自分の強みになりました。もし、剣道を始めていなかったら、声が大きいということの欠点にだけ囚われ、良いところに気づくこともなかったでしょう。剣道と出会って自分の新たな強みを知ることができました。

その後、部活で初めて先輩という立場に立って、自分の練習にも真剣に取り組み、私たちのことも気にかけてくれた先輩達の凄さに気づきました。私は先輩達ほど剣道は上手くなかったのも、技術的な面で先輩に教えられることは少なく、自分は先輩としてどうあるべきか悩みました。たくさん悩んだ結果、教えられることが少なくても、今の自分が持っているものを全て伝えようという思いで先輩達と接しました。このことが、私が今まで以上に真剣に部活に取り組むきっかけになりました。一方で、先輩達と部活をするなかで嫌われたくないという思いが生まれ、注意するのをためらうことがありました。しかし、それは先輩達に対して失礼なことだと感じ、勇気を出して注意することができました。この経験によって私はより成長することができました。先輩という存在に出会えたから自

分と向き合い考えることができました。

部活での経験から、不安に思うことも「やってみよう」という思いを信じて続けてみると多くのことが得られるということを知りました。女子1人を経験した私だからこそその出会いがあり、同級生と私4人での部活の時間が長かった私だからこそ先輩としての自分の在り方を真剣に考えられました。入部したばかりの頃、不安でいっぱいだった部活がこんなにも楽しく、私を成長させてくれることになるとは思ってもいませんでした。私はこの先、幾度となく困難にぶつかり多くの選択に迫られるでしょう。挑戦したいと思うことには自分1人かも知れませんが自分の気持ちを信じてやってみようと思います。

私は、1人で挑戦することを恐れず自分の行きたい世界へ進める人間になります。

みなさんも、自分1人だけの環境に不安を感じても自分のやってみたいと思う気持ちを信じて、挑戦してみてもどうでしょうか。挑戦した結果、上手くいかず諦めてしまったとしてもその経験は決して無駄にはなりません。まずはやってみようという気持ちが大切だと思います。挑戦してみた人だけが出会える世界、得られるものがあります。みなさんも勇気を持って挑戦してみませんか。

● プロフィール ●

好きなことやもの

好きなことは、本を読むことです。休みの日は図書館や本屋によく行っています。どんなジャンルも読みますが、医療ミステリーが特に好きです。また、ゲームをすることも好きです。1番好きなゲームはテトリスでもっと上手くなれるように上手な人の動画を見て勉強しています。

苦手なことやもの

苦手なことは運動です。運動することは好きですが運動神経がないため変な動きをしてしまいます。中学校に入るまでスキップができませんでした。しかし、柔軟性だけはあるため、変な動きによって大きな怪我をしたことはありません。怪我に気をつけて運動を楽しめるようになりたいです。

将来の夢

私の将来の夢は、学校の先生になることです。勉強が少しでも楽しいと思ってほしい、学校が全ての子にとって少しでも楽しいと感じられる場所にしたい。たくさんの子を笑顔にしたいという理由で学校の先生になりたいと思っています。夢に少しでも近づくため、今は勉強を頑張っています。



優良賞

挑戦は、バージョンアップ

仙台市立長町中学校 3年 ^{こん}今 ^の野 ^{ゆう}佑 ^や哉

「生徒会をやってみませんか？」

担任の先生からの突然の一言に、私は心の中でガッツポーズをしていました。「やります。」と私はすっかり上機嫌になって引き受けました。私はある学園モノのアニメを見ていて、そこに出てくる「生徒会」という人たちに憧れをもっていました。彼らは、学校の運営に関わったり学校の生徒たちのリーダーのような活動をしたりしていて、とてもかっこよく見えました。その「生徒会」に私も入ることができる。私にとって、生徒会は挑戦の連続でした。

今までの生徒会活動で最も大きな挑戦だと感じているのは昨年度の3月に行われた予餞会です。予餞会では「生徒会執行部から」という企画が設けられました。何も決まっていない状態からすべて自分たちで作り上げることは、私にとっても、生徒会執行部にとっても初めての試みでした。特に企画では長い期間話し合いを続けました。予餞会当日。私は自分が出てくるまで、先輩方はどんな反応をするのかな、笑ってくれるのかなという期待と不安で胸がいっぱいでした。自分の番が来たとき、最初は少しぎわつていましたが、段々笑ってくれた先輩方が多くなり最終的には大成功という形で予餞会は終わりました。私は心の中で何度もガッツポーズをしていました。また、自分が人を喜ばせることができるとは思っていなかったのも、自分の新たな強みに気づくことができました。

このような生徒会活動と並行して、私が夢中で取り組んでいたことがもう一つあります。それは部活動です。私は卓球部に所属していました。しかし、生徒会の話合いが遅くまで続いたことで部活動に行けない日が何日も何日もありました。私の胸の中は、もはやした雲に覆われていました。私は何度も生徒会に入らなきゃよかったのかな、と悩みました。しかし、その度に私は生徒会に望んで入ったんだ、生徒会も、部活動も、中途半端にしないで最後まで挑戦してやると自らを奮い立たせました。しかし、追い打ちをかけるように校舎の改築により卓球部は練習する日や場所が限られてしまいました。このままじゃダメだと思った私は、自主練習に熱心に取り組み始めました。その結果、自分の技術の精度が上がりました。特に今までできなかったことができるようになったときは大きな達成感がありました。

ある日、自主練習に同学年の仲間が誰も参加できないことがありました。私は思い切って、普段の活動であまり一緒に練習しない後輩を誘ってみました。すると後輩はすぐに「わかりました。」と返事をしてくれました。それからというもの、自主練習に来る後輩たちが増えていき、普段の部活動でも気軽に話せるよう

になり、つながりが強くなっていったのです。

この挑戦により、私はレギュラーメンバーを勝ち取りました。昨年度に行われた新人戦の団体準決勝。互いに2勝して、最後の1人としてコートに入った私は、絶対に負けられない緊張の中、なんとか粘り勝ち、県大会への切符を手に入れることができました。

私たちの身の回りには様々な挑戦の機会が溢れています。そんなときこそ、思い切って一步を踏み出してみませんか。その一步を踏み出せたとき、その先に待っていることはたくさんあります。新たな学び、芽生える自信、技術の向上、新しい友人との出会いと、いいことだらけです。さらに、今まで気付かなかった、新しい自分の一面にも気付けます。また、思いもよらなかった新たなことができるようにもなります。挑戦は、新しい自分に会えることも醍醐味の一つです。それでも、不安や心配でなかなか一步を踏み出せない人もいることでしょう。誰でも失敗することは怖いことです。しかし、挑戦しなければ、何も変わりません。失敗することで失敗を恐れない、心の強い自分、新しい自分に出会うことができると考えてみてはどうでしょうか。

「挑戦とは、バージョンアップである。」挑戦する度に新しい自分になれるのです。私はこれからも、様々なことに挑戦を続けて、未来の選択肢をどんどん増やしていきたいです。次はどんな新しい自分に出会えるのか、楽しみで仕方ありません。みなさんも、どんどんバージョンアップしてみましょ。新しい自分に。

● プロフィール ●

好きなことやもの

ゲームをすることです。特にアクションゲームが好きで、全てクリアするまでコツコツとやりこむという進め方が好きです。好きな教科は社会で、特にたくさんの人物の偉業を学ぶことができる歴史が大好きです。

苦手なことやもの

面倒なことや取り組みなければいけないことを好きなことよりも優先して取り組むことです。特に、長期休みの時に課題を計画的に終わらせたことがなく、私にとっての最も大きな課題となっています。

将来の夢

1級建築士の資格をとり、自分が設計した住まいや公共の場所などを多くの人々に使ってもらおうことです。幼い頃からミニカーなどのリアルな模型が好きだったことが、この夢につながっています。



優 良 賞

「広がれ、幸せの輪」

大崎市立松山中学校 3年 ^{しも}下 ^{やま}山 ^{るりあ}琉梨愛

人を幸せにするために何かをしたい、誰かの役に立ちたいとずっと思っていた。中学生になってからは、災害が起きると、被災地にボランティアに参加したいと考えるようになった。私の思いを伝えると、母は「災害ボランティア…。危ないよ。何があるか分からないよ。」と静かに、言葉を選ぶように話した。

私は母が心配をして言ってくれたことにすぐに気づき、何も言えなくなった。その後も自分の気持ちが整理できないまま、母に反抗できず諦めていた。

7月のある日、学校でボランティアセミナーの授業があった。講師は、全国各地で支援活動をしている高橋さん。高橋さんは、災害があると食料や毛布など必要な物資を運んだり、洪水で家に入った土砂をスコップで掻き出したりした経験を詳しく教えてくれた。前日は被災地で手伝いをし、夜通し運転して松山に帰った。そして高橋さんは、午後から数日前に水害があった古川地区のボランティア活動に参加すると言っていた。疲れているはずなのに、高橋さんの爽やかな笑顔が輝いて見えた。最後に、「中学生のみんなにもできるボランティアがあるよ。自分を好きになれるので、一緒に活動しよう。」と誘ってくれた。その言葉に、私は驚きと同時に興味を持ち、中学生が安全にできるボランティアのあることで頭がいっぱいになった。

「明日、松山地域で災害ボランティアがあるんだって、私は困っている人たちの笑顔が見たいから、行きたいんだ。」心臓がばくばく波打っているのが分かった。黙って何も言わず、うつむいたままの母はいつもより小さく見えた。

翌日は、雲ひとつなく晴れ渡った快晴。ボランティア会場まで歩いていこうとしたら、母が「送ってくよ。」と声をかけてくれ、私は驚きを隠せないまま「うん！」と大きく頷いた。私は心の中で母に感謝をし、すっきりとした気持ちで一步を踏み出すことができた。

ボランティアの内容は、泥水で汚れた写真を洗浄するという作業だった。写真洗浄は少しの力を加えるとインクが落ち、ただの白い紙になってしまった。失敗できないという緊張感、気温30度超える真夏の暑さから汗が流れてきた。ボランティア終了後、きれいになった400枚以上の写真が、青空の下、洗濯はさみでつるされている光景を見て、立ち尽くした。そのとき、今までに経験したことのない達成感を感じた。

もう一つうれしいことがあった。高橋さんのお子さんと遊んでいたら、高橋さんの奥さんに「遊んでくれ

てありがとう。それも立派なボランティアだよ。」と笑顔で言われ、はっとした。自分が何気なくやったことでも「ボランティアに、人助けになるんだ。」と考えたこともなかった。

今回の経験から、ボランティアへのイメージが大きく変わった。大変で辛いイメージがあったけど、自分の得意なこと、好きなことも誰かの役に、ボランティアになるということを知った。私がやりたかったのは、誰かに元気になってもらうことだと確信できた。

帰り道、清々しい気持ちになり、自然と笑顔になった。「次は何をしよう。」と考えるとワクワクしてきた。高橋さんが話していた自分を好きになることができるとは、自分に自信が持てるからだと思った。他の人も、自分も大切に、皆で幸せな社会を創っていききたい。そのために、私ができることに取り組んでいきたい。

幸せの輪が広がることを信じて。

● プロフィール ●

好きなことやもの 吹奏楽が好きで、マードックが好きです。私はフルートを担当しています。

苦手なことやもの 虫が苦手だけど、学校にはたくさん虫がいるので、克服できるように頑張ります。

将来の夢 人の役に立つ仕事がしたいので医療事務の仕事につきたいです。



優良賞

つながりのある社会を目指して

仙台市立幸町中学校 3年 ^{すず} ^き ^{かな} ^で 鈴木花奏

2年前の秋、県内の認定こども園に刃物を持った男性が侵入しようとした事件が起きました。さらに先日は、小学校に軽トラックが侵入し児童がはねられる事件もありました。

どちらもあまりに身近な地域で起こったこと、しかもその対象が抵抗のできない相手だったことが本当に恐ろしく、ずっと体の震えが止まらなかったことを覚えています。

こども園の事件の後には、犯人が「小さな子どもを殺して死刑になりたかった」と供述したことが報じられました。インターネット上でも大きく取り上げられ、次のようなコメントがいくつも書き込まれていました。「また『無敵の人』による犯行だ。」

皆さんは「無敵の人」という言葉を知っていましたか。ネット上の俗語で、社会との接点が薄く、社会的に失うものが無いため、犯罪を起こすことに何のためらいもない人を指すようです。

私はその時初めて知り、その表現に違和感を覚えました。「無敵」といえば、飛び抜けた強さや能力で弱いものを救うヒーローのような存在が思い浮かぶからです。誰かを傷つける事や、逮捕や刑罰を恐れない様子を「無敵」と表すのは、とても悲しいことだと考えます。それほどまでに追い詰められる状況とは、いったいどのようなものなのでしょう。

先日、図書館で「女子少年院の少女たち」という本を見つけ、思わず手に取りました。その本では、実際に少年院に収容された数名の少女について、生いたちや生活の様子が書かれていました。犯罪に手を染めるなんて、身勝手に恐ろしい人に違いないと疑わずに読み始めた私は、ページをめくるにつれ、彼女達があまりに過酷な環境で育ってきたことを知り愕然としました。

両親から育児放棄された人、暴力を受け続けた人、薬物中毒の母のため窃盗を繰り返して生活を支えようとした人もいました。生まれてから過ごした時間の長さは私とあまり変わらない彼女達が、「少年院の先生と出会って初めて自分を大切にされる気持ちを知った。」とつぶやく様子を読み、その想像を絶する辛さ、寂しさを知り、胸が張り裂けそうになりました。もちろん、犯罪は許されることではありませんが、もし彼女たちに優しく寄り添う人が1人でもいたなら罪を犯すことも、被害者を生むこともなかったのではと変わらずにはられません。

今私の周りには、家族、友達、先生と、一緒に笑い

合い、困った時には話を聞いてくれる多くの人がいま。時に思い切り感情をぶつけられるのも、互いに信頼し、それくらいでは関係が壊れないと知っているからです。コロナ禍の閉塞的で不自由な時間を乗り越えられたのも、共にその苦しさを分かち合い、励まし合ったからだと思います。当たり前だと思っていたその環境が、実はとても幸せなことだと改めて感じました。

これから私たちが生活していくうえで本当に必要なのは、社会や人とのつながりを実感することではないのでしょうか。

まずは、目の前にいるその人に関心を持ち、否定せずに受け入れてみる。もし自分に自信がない時、「あなたはそのままでもいいんだよ。」と言ってもらえたらどんなに安心できるでしょうか。つまりいた時には、「大丈夫、なんとかなる」「もう一度一緒にがんばろう」と何度でもチャレンジを支え合える姿勢こそが、「無敵な人」を生まない社会への一歩だと考えます。

私もこれまで、心を許せる相手以外にはあえて関わろうとしなかったり、困っている誰かに気づいた時、余計なお世話と思われたくないと見て見ぬふりをしたりすることがありました。これからはもっと周りに目を向けて思い切って声をかけたり、自分と異なる意見にも最後までじっくり耳を傾けたりしてみようと思います。

みなさんも、気づいたことから行動に変えていきませんか。

この社会の中に、本来の意味での「敵」などいないはず。誰も排除されることのない、互いに認め合えるつながりのある社会を一緒に目指しましょう。

● プロフィール ●

好きなことやもの チアダンス

苦手なことやもの ダンス以外の運動全般

将来の夢 食に関わる仕事